

平成26年度 学校関係者評価の結果について

平成27年3月9日に、学校関係者評価委員会を実施し、学校評議員やPTA役員の代表の方より貴重な意見をいただきました。今後の学校運営の参考にしていきたいと思います。

1. 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

- ・先生方を中心に大いに工夫されていると思う。
- ・家庭学習を推進する取り組みを考えてほしい。
- ・基本の学習はもちろんの事、応用力を身につけさせる事も大事。
- ・文章を最後まで読む等、あたりまえの事がぬけているのでは。
- ・児童1人1人の能力が違うので、20分休みや放課後などを利用して、その子にあった補習、補講をしてほしい。

2. 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

- ・学校だけではできないことも多々あると思う。家庭との協力や困ったことがあれば、こまめに話し合う機会が大切であると思う。
- ・多くの命、めぐみ、人々の支えに感謝する心を養ってほしい。
- ・あいさつ活動、ありがとうカードの取り組みは大切。今後も続けてほしい。
- ・個々の児童への対応が、担任だけでは大変。
- ・欠席や遅刻の多い児童への対応に力を入れてほしい。
- ・児童数に対して、カウンセラーや心の教育支援員等の人数が少ない。人数や時間に余裕があれば、問題行動を初期の段階でくいとめられるのでは。

3. 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む

- ・家庭中心に課題に取り組む必要があると思う。
- ・「すもう大会」「なわとび」「マラソン」等の取り組みはよいと思う。
- ・給食時、食事のマナーを守りつつ、楽しく食べるように心がけてほしい。
- ・給食に関しては、献立に関して物資調達委員会、献立作成委員会の情報が学校側にも伝わればいい。

4. 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

- ・地域中心に取り組む必要があると思う。
- ・この地域の防災について、より詳しく子ども達、できれば地域に住む人達と一緒に学べる機会があればと思う。
- ・避難訓練の後は、少し防災に対する意識が高くなっているように思う。
- ・引き渡し訓練は、保護者の意識が低いように思う。

- ・学年によっては、訓練だからとふざけていると聞くので、訓練の大切さを理解させる必要がある。

5. 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

- ・子どもの人数が減少するにつれ、連携は浅くなっているように思う。本来は逆だと思ふのに。
- ・三者の関係がよりよくなる為に、行事等を考えてほしい。
- ・通学時の交通指導など、地域の方にもご協力をいただきたい。
- ・「昔あそびの会」等、地域の方との連携はとても大切。

6. 教育目標 「共に生き、自ら進んで、最後までやりぬく子の育成」

- ・「最後までやりぬく」はとっても大切であると思う。学年に応じて1つのことをやりぬく課題をつくり、それを達成するという具体的目標を各学年で創れば、学年毎の統一もはかりやすいのでは。
- ・自分で考えて行動できる子を育ててほしい。少し考えればできることも、すぐに先生に頼る子が多い。
- ・読書の定着が大切。心も落ち着けるのではと思う。
- ・マラソンカード、なわとびカードについて、達成しなくてもいいと思っている児童もいる。カードの位置づけを見直す必要がある。
- ・「自ら進んで」というのが、何をしたいのかわからない子が多い。そのことが課題。

7. 研究テーマ 「自ら読み解き、自分の考えを論理的に表現する力の育成をめざして」

- ・読解力をつけるために、図書室の充実を。

8. その他

- ・「昔あそび」は、無理のない程度で継続するとよいと思う。